

平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成29年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成29年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	81人	算数	81人	理科	81人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	74人	算数	74人	理科	74人
------	----	-----	----	-----	----	-----

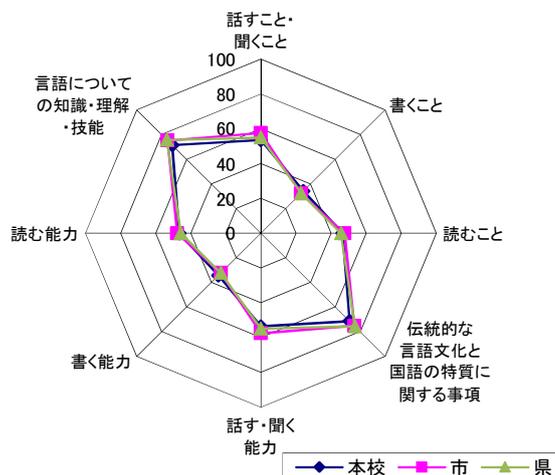
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	53.5	57.5	54.9
	書くこと	34.2	32.3	32.3
	読むこと	46.5	47.7	45.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.5	75.3	75.8
観点	話す・聞く能力	53.5	57.5	54.9
	書く能力	34.2	32.3	32.3
	読む能力	46.5	47.7	45.7
	言語についての知識・理解・技能	71.5	75.3	75.8



★指導の工夫と改善

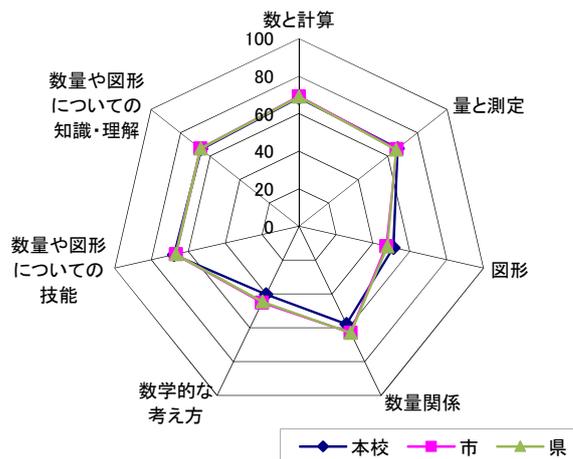
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●平均正答率は、53.5%と市の平均正答率57.5%より4ポイント低い。話の中心に気を付けて聞いたり、自分の意見を述べたりすることを苦手とする児童が多い。	○国語だけではなく、日常生活においても基本的な話の聞き方を身に付けさせる。 ●話を聞かるときはメモをとるなど、話の中心を落とさずに聞く機会を意図的に設定する。
書くこと	○平均正答率は、34.2%と市の平均正答率32.3%より1.9ポイント高い。 ●レポートの構成や書き方が定着していない児童が多い。	○レポートの構成について再度指導し、社会・理科・総合的な学習などでも、積極的にレポートを書かせる。 ●短文づくりや視写、作文づくりなど、文を書く練習を意図的に取り入れ、文を書くことに慣れさせるとともに、基礎的な文の記述を身に付けさせる。
読むこと	●平均正答率は、46.5%と市の平均正答率47.7%より1.2ポイント低い。 ○物語文では、登場人物の気持ちを想像して読むことを得意としている児童が多い。	●物語文では、登場人物の気持ちの変化や情景などについて読み取るために、登場人物の行動や会話に着目して読むよう指導していく。 ●説明文では、段落ごとの話の中心を捉えさせ、段落相互の関係をおさえることができるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●平均正答率は、71.5%と市の平均正答率75.3%より3.8ポイント低い。 ○既習漢字を読むことにおいては、定着している児童が多い。 ●ローマ字の定着が十分ではない。	●新出漢字の練習をする際には、色々な読み方があることにも注目して書くように指導していく。 ●ローマ字は繰り返し指導していく。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.6	69.2	69.1
	量と測定	66.7	66.1	65.6
	図形	51.2	47.4	48.0
	数量関係	57.8	62.9	63.1
観点	数学的な考え方	40.2	45.1	44.6
	数量や図形についての技能	67.7	66.8	66.8
	数量や図形についての知識・理解	66.2	66.6	66.5



★指導の工夫と改善

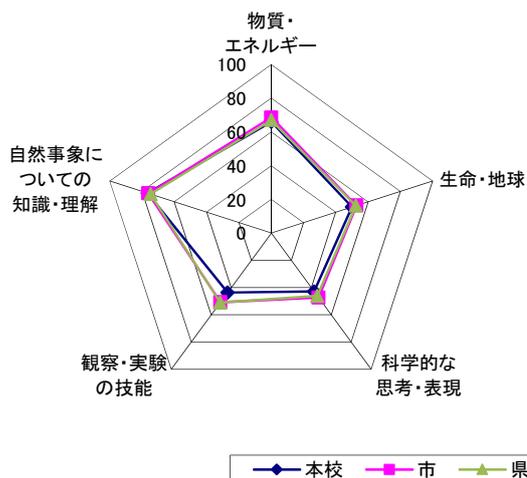
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率は68.6%と、市の平均正答率の69.2%より0.5ポイント低い。 ●3位数×2位数のかけ算や、あまりのある割り算、また整数-小数の計算などの計算問題については、正答率が市の平均正答率よりも低く、多くの児童が苦手としている。 ○3位数+3位数は平均正答率が91.4%と比較的高く、継続して計算演習を行った成果である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●計算の基礎基本について既習内容に戻り、基礎から復習しながら授業を行う。また、既習事項の内容の確認をその都度行う。 ●かけ算九九や、乗法・除法の筆算の基礎においてつまづきが見られる児童には、個別に指導を進めていく。 ●かけ算やわり算を用いる場面を図や言葉で表現することで、正しく立式できるようにしたい。
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率が66.7%と、市の平均正答率の66.1%より0.6ポイント上回っている。 ○重さの見当をつける設問では、平均正答率が66.7%と市の平均正答率の61.3%を5.4ポイント上回っている。 ●時間の換算や、はかりの目盛りの読み取りが十分に理解できていない児童が目立つ。 ●時刻を求める問題では、理解に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●時刻や重さの目盛りの読み取りや、時、分、秒の違いや換算は、日常生活の中でも、具体的な場面で継続指導していく。 ●数直線や図などを用いて、視覚的にとらえさせ、換算への手立てを講じる。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○平均正答率は51.2%で、市の平均正答率の47.7%より3.8ポイント高い。 ○正三角形の作図では、コンパスや定規などの使い方を理解し、正確に図形を表すことができた。 ●円に関する作図では、問題の意味が理解できず、条件に沿って作図できない児童も見られた。 ●箱の中に入っている、同じ大きさの6個のボールから半径を求める問題では、正答率が46.9%で、市の平均正答率の56.8%を大きく下回った。正しく答えを求めるまでの過程を十分に理解できていない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●図形を使った類似問題に取り組み、考え方や解き方の理解を図る。 ●コンパスや定規の使い方が不十分な児童には、その都度確認をして問題に合わせた使い方ができるよう指導する。 ●図形を分かりやすく板書したり、デジタル教科書を利用したりしながら、授業展開を工夫し、立体模型等の具体物を用いて説明をすることで、理解を図る。
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> ●平均正答率が57.8%で、市の平均正答率の62.9%を5.1ポイント下回っている。 ●棒グラフの読み取りの活用問題では、グラフの読み取りが十分にできない児童が見られた。 ●買い物の場面で、代金の計算の仕方について適した考えを選ぶ問題では、平均正答率が34.6%と市の平均正答率と比べ、12.9ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●問題文の意味を読み取れないために、正答に結びつかないことが考えられる。そのため、考え方を明確にできるよう、図や絵、言葉などで自分の考えを表現する場を設ける。 ●類似問題を繰り返し行い、問題場面を想像しながら、回答できるよう指導する。 ●場面の数量関係を図や口を使った式で表せるようにしていきたい。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	66.0	68.6	66.9
	生命・地球	50.0	52.8	52.4
観点	科学的な思考・表現	42.9	47.4	46.2
	観察・実験の技能	43.7	50.8	51.1
	自然事象についての知識・理解	76.6	76.1	74.8



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
		○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
物質・エネルギー	<p>●平均正答率66.0%で市の平均正答率(68.6%)より2.6ポイント低く、県の平均正答率(66.9%)より0.9ポイント低い。</p> <p>○光の性質で、複数枚の鏡に日光を反射させて水を温める方法の設問において正答率が97.5%と高く、十分によく理解できている。電気の通り道において、一つの豆電球と乾電池を使い、明かりがつく回路を選ぶという設問で、正答率88.9%と十分によく理解できている。</p> <p>●風やゴムのはたらきで、実験結果から必要なゴムの伸びを推測する設問においては正答率が49.4%と低く、理解が不十分である。電気の通り道において、回路を作る際の導線の安全なつなぎ方を問う設問では、正答率が21.0%と県平均よりも11.7ポイントと低く、理解が不十分である。</p>	<p>○理解はしていても、その説明をすることが苦手な児童が見られることから、国語の学習と関連付けながら、事象や理由を説明する力を身に付けられるようにしていく。</p> <p>●ゴムの引く強さと車が走る距離との関係は理解できているものの、実験結果から必要なゴムの伸びを推測することができなかったため、実験の時間を十分に確保するとともに、その結果から必要なゴムの伸びを推測させる活動を多くもつようにする。</p> <p>●導線の回路の作り方において、危険なつなぎ方をした場合に起こりうる事象について、実験上の注意点として十分に説明する必要がある。</p>
生命・地球	<p>●平均正答率50.0%で市の平均正答率(52.8%)より2.8ポイント低く、県の平均正答率(52.4%)より2.4ポイント低い。</p> <p>○身近な自然の観察では、昆虫の成虫が食べ物がいない場所にいる理由を説明する設問において、正答率が55.6%で県平均よりも14.7ポイント高かった。</p> <p>●身近な自然の観察では、昆虫の体の色とすみかとの関係について考察する設問において、正答率が39.5%と県平均よりも4.7ポイント、市平均よりも18.6ポイント低く理解が不十分だった。場所と見つけた昆虫の数のグラフをもとに考察する設問では、正答率が49.4%と低く、県平均よりも9.8ポイント低く、市平均よりも12.4ポイント低い。</p>	<p>○グラフや実験結果から考察を記述していくことが苦手なことから、観察や実験などで考察する機会を意図的にとり、考察の仕方を身につけさせていく。</p> <p>●昆虫の体の色とすみかとの関係について理解が不十分だったので観察の際に見つけた場所と昆虫の体の色の関係性について着目させる。</p>

宇都宮市立清原南小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「毎日朝食を食べている。」と肯定的回答した児童が96.3%と非常に高く、ほとんどの児童が朝食をきちんと摂っている。各家庭で朝食を摂るという習慣が身に付いていると考えられる。また、「将来のことについて、家族と話すことがある。」と肯定的回答をした児童が70.4%であり、県や市の平均より上回っていることから家族とのコミュニケーションが概ね図られていることが分かる。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つに思う。」と肯定的回答した児童が96.3%、「学校の宿題は自分のためになっている。」と肯定回答した児童も、97.5%と非常に高い。また、「将来の夢や目標をもっている」について肯定回答した児童が91.4%、「授業を集中して受けている。」と肯定的回答をした児童は93.8%と高い割合を示している。これらのことから、将来の夢や目標のために学習をすることが大切であると感じている児童が多いと考えられる。

○教科に関する質問では、「社会の学習が好き」と回答した児童が74.1%と市の平均より3.5ポイント、県の平均より6.5ポイント高かった。また、「社会の授業の内容がよくわかる。」と答えた児童は93.8%と市の平均より7.2ポイント、県の平均より9ポイント高いことから、社会の学習に対する興味関心が高く、学習内容を理解していると感じている児童が多い。

●「学習に対して自分から進んで学習をしている。」と肯定的回答をした児童は56.8%と市の平均より13.8ポイント、県の平均より15.8ポイントと低い。また、「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある。」の肯定的回答をした児童は72.8%と市の平均より11.9ポイント、県の平均より8.6ポイント低かった。身の回りの出来事や自然の様子に目を向けられるような話題を取り上げたり、教材開発の工夫をしたりすることで、児童の学習意欲を高められるようにしたい。

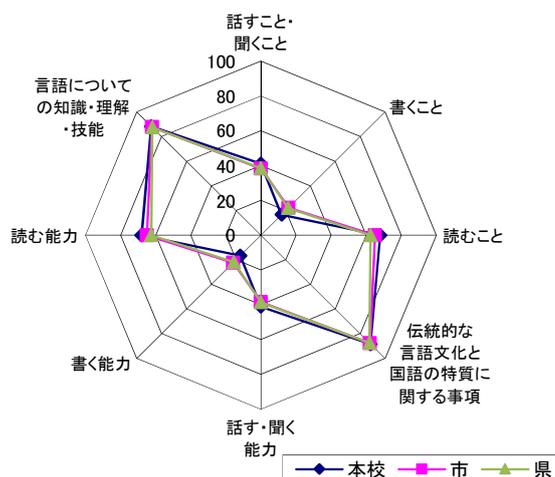
●「本やインターネットを利用して、勉強に必要な情報を得ている。」と肯定的回答をした児童は26.9%と市の平均より10.7ポイント、県の平均より10.5ポイント低い。授業等でパソコンなどの情報機器を利用する機会を増やすことで、インターネットを有効に活用し、自分たちに必要な情報を収集する能力を育てていきたい。

●「学習のめあてを書いている。」と肯定的回答をした児童は65.4%と市の平均より12.6ポイント、県の平均より13.5ポイント低い。また「学習の振り返りを行っている。」と肯定的回答をした児童は58%と市の平均より10ポイント、県の平均より11.5ポイント低かった。授業の際に、学習のめあてを明確に児童に示すとともに、授業の最後に児童が本時の授業内容を振り返る場と時間を確保する。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	41.0	38.3	38.5
	書くこと	16.7	22.3	21.9
	読むこと	68.0	65.0	62.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	88.4	87.8	87.5
観点	話す・聞く能力	41.0	38.3	38.5
	書く能力	16.7	22.3	21.9
	読む能力	68.0	65.0	62.5
	言語についての知識・理解・技能	88.4	87.8	87.5



★指導の工夫と改善

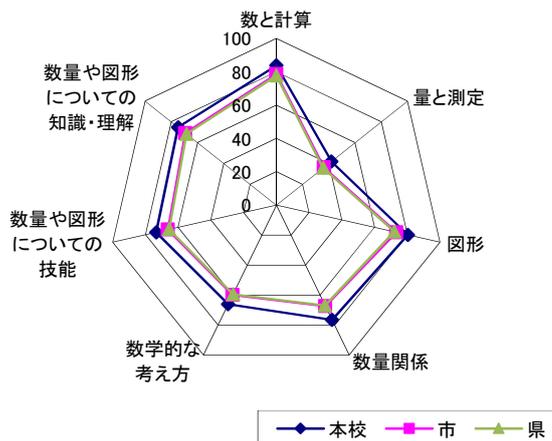
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、41.0%と市の平均正答率38.3%より2.7ポイント高い。 ●考えの根拠を示しながら筋道を立てて話すことが苦手な児童が多い。	・話したいことの中心や理由を明確にしたメモを作成し、自分の意見を順序立てて話すことができるように指導する。
書くこと	●平均正答率は、16.7%と市の平均正答率(22.3%)より5.6ポイント低い。特に、必要な情報を読み取り、条件に合った文を作成することが苦手な児童が多い。	・いくつかの条件を提示し、全てを満たして文を書くことができるよう指導していく。
読むこと	○平均正答率は、68.0%と市の平均正答率(65.0%)より3ポイント高い。 ●文章の要点や細かい点に注意して読み、言葉を引用することが苦手な児童が多い。	・文章に書かれている言葉を大切に、設問に即して正しく引用する練習を繰り返し行う。 ・説明文では、段落ごとの話の中心を捉えるとともに、段落相互の関係をおさえ、文章構成を理解することができるよう指導していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○平均正答率は、88.4%と市の平均正答率(87.8%)より0.8ポイント高い。漢字の読み書き、漢字辞典の使い方については、これまでの指導の成果が表れていると考えられる。 ●修飾と被修飾との関係を理解していない児童が見られる。	・短文づくりや視写を通し、修飾と被修飾の関係を理解できるよう繰り返し練習を重ねる。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	83.8	78.6	77.7
	量と測定	41.9	36.3	35.7
	図形	80.4	73.3	72.1
	数量関係	76.5	67.4	66.9
観点	数学的な考え方	66.1	59.9	59.4
	数量や図形についての技能	73.4	66.3	65.5
	数量や図形についての知識・理解	74.8	69.4	68.5



★指導の工夫と改善

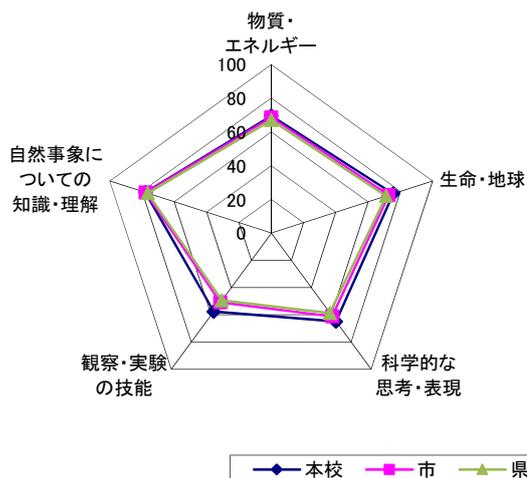
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率83.8%で、市の平均正答率は78.6%より5.2ポイント高い。</p> <p>○基礎・活用ともに、おおむね市、県平均を上回っている。</p> <p>●倍であらわされた数量関係についての理解が他の設問と比較して不十分である。</p>	<p>・場面を表した図をもとに立式する活動を効果的に取り入れ、数量の大きさの違いを一目で比べることができる良さを実感させることで、数量関係に関する豊かな感覚を養う。</p>
量と測定	<p>○平均正答率は41.9%で、市の平均正答率は36.3%より5.6ポイント高い。</p> <p>●式にあった複合図形の面積を求める方法を説明する問題では、正答率が市の平均より2.1ポイント低く、考えを言葉で表現することに課題がみられた。</p>	<p>・「なぜそのような式になったのか」、「どうしてこのような説明になるのか」などと教師の発問を工夫し、児童が考えて計算を解くような指導をする。また、自分の言葉で計算の流れを短く説明したり、ノートに記述したりするなど、文章で表す授業展開を取り入れる。</p>
図形	<p>○平均正答率は80.4%で、市の平均正答率が71.3%で7.1ポイント高い。</p> <p>●与えられた2辺の続きを書いて、平行四辺形を完成させる問題では、67.6%と市の平均を上回っているが、児童の理解度に大きな差がみられる。</p>	<p>・図形の性質をもとにして作図ができることをおさえ、定規とコンパスの使用に意味づけをしながら、作図の技能を高めていけるように支援する。</p>
数量関係	<p>○平均正答率は76.5%で、市の平均正答率が67.4%で9.1ポイント高い。</p> <p>●2つのグラフについて、正しくない説明を選ぶ問題では、説明をもとにした値の読み取りにおいて、児童の理解度に差がみられる。</p>	<p>・グラフの読み取り方を再確認し、最大値や最小値の読み取りについて社会科や理科など、他教科の学習機会を活かしながら、グラフを読み取る力を高めていく。</p>

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	69.6	68.6	67.0
	生命・地球	75.5	72.7	71.1
観点	科学的な思考・表現	64.9	61.2	58.8
	観察・実験の技能	57.7	51.0	49.5
	自然事象についての知識・理解	77.9	77.7	76.6



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率69.6%で市の平均正答率(68.6%)より1ポイント高く、県の平均正答率(67.0%)より2.6ポイント高い。</p> <p>○金属・水・空気と温度で、金属の性質を基に考えたためとふたが開く理由を問う設問において、正答率が79.7%で県平均よりも11.6ポイント、市平均よりも9.7ポイント高い。</p> <p>●全体的には市の平均正答率よりも上回っている設問が多い。ただ、湯気と水中から出てくる泡の正体に関する設問では、正答率が5.4%とほとんど理解できていない。</p>	<p>○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの</p> <p>○空気や水の温まり方など目に見えない現象については、絵や図などを使って分かりやすくし、言葉だけでまとめないようにしていく。また、身の回りに同じ現象がないか調べたり、理由を考えさせたりして理解を深めていきたい。</p>
生命・地球	<p>○平均正答率75.5%で市の平均正答率(72.7%)より2.8ポイント高く、県の平均正答率(71.1%)より4.4ポイント高い。</p> <p>○月と星の内容で星座の動きをとらえるための適切な記録方法を問う設問においては、正答率が67.6%と、県平均よりも13.7ポイント、市平均よりも13.1ポイント高かった。</p> <p>●全ての問題で県の平均正答率よりも大きく上回っていた。しかし、季節と生物の内容で、冬の頃の桜の様子についての理解は不十分だった。</p>	<p>○観察の時間を十分に確保するとともに、視聴覚教材などを活用し、桜のつぼみの成長が視覚的に分かるようにする。</p>

宇都宮市立清原南小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で学校の宿題をしている」「学校の宿題は、自分のためになっている」に肯定的回答をした児童の割合は100%だった。これらのことから、学校や地域学校園で推し進めている家庭学習習慣の定着の必要性が理解できていることが考えられる。

○「国語や社会、算数については、学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立っている」に肯定的回答をした児童の割合は100%だった。このことから、自分の夢を実現させる上で今学習している内容をきちんと身に付けることの大切さについてよく理解できている。

○「本やインターネットなどを利用して勉強に関数情報を得ている」に肯定的回答をした児童の割合は70.3%、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ている」に肯定的回答した児童の割合は89.2%、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」90.5%といずれも市の平均を上回っていることから、社会でのいろいろな出来事に興味をもっていることがうかがえる。

●「家で学校の授業の予習をしている」に肯定的回答をした児童の割合は62.2%、「家で学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合は64.9%である。市の平均よりも高い割合ではあるものの、決められた課題にははこつこつ取り組む一方で、自分で考えて主体的に学習に取り組もうとする意識が低いことが分かる。

宇都宮市立清原南小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
算数における単元や子どもの実態に合わせた少人数指導や習熟別学習の充実	個に応じた対応と集団の特性を効果的に生かす学習形態を工夫し、計画的、継続的に指導にあたる。	算数では技能の向上が見られ、4・5年生ともに正答率が市・県平均を上回った。
国語における、読む力・表現する力の育成	「正確な読み取り」に重点を置き、さらに言語活動を通じて様々な考え方と出会う中で、読みを深めていける授業の展開を工夫する。	国語では、「読むこと」が県平均を上回った。「言語についての知識・理解・技能」においては個人差が大きく、漢字やローマ字の定着に課題が見られ、「正しく読む」ことのみならずの原因となっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
文字、言葉を正しく理解できていないことによる読み取りのつまずきが、考えることや表現することへの抵抗に大きく影響している。	朝の学習の時間を活用した個人のスキルアップと、読みの流暢性を高めるための学習の充実を図る。	読みの力において全児童に対する定期的なアセスメントを行い、個人のつまずきを的確に把握できるようにする。明確な到達目標を設定して示し、個人差に応じたきめの細かい指導の時間を全校体制で確保し、早期に適切な手立てを講じる。